

9) 全身化学療法 (FP 療法) が奏功した食道アカラシア合併食道癌・肝転移の1例

柳 雅彦・黒田 兼
石川 直樹・太田 宏信 (済生会新潟第二
吉田 俊明・上村 朝輝 病院消化器科)
武田 敬子 (同 放射線科)
石原 法子 (同 病理検査科)

食道アカラシアは下部食道および噴門部の弛緩不全による嚥下障害とそれより上部の食道に異常拡張をみる機能的疾患である。しかしその慢性的な炎症・刺激による食道癌の合併はしばしば報告されている。今回我々は食道アカラシアに合併した食道癌・肝転移の1例を経験し、全身化学療法 (FP 療法) が奏功したので報告する。

症例は55才男性。30年ほど前より食道アカラシアを指摘されていたが自覚症状に乏しく放置していた。最近、右季肋下に腫瘤を触知するようになったため平成8年8月26日精査目的に入院。上部消化管内視鏡検査で食道アカラシアと下部食道に2型の食道癌 (squamous cell carcinoma) を認め、また腹部 CT では肝右葉は多発の低吸収領域によってそのほぼ全域が置換されていた。食道癌・肝転移と診断し全身化学療法 (5-FU 750 mg/body, CDDP 20 mg/body, 1~5 day/Mo) を3クール施行し、原発巣には CR・肝転移巣には PR が得られている。

10) chemotherapy を応用した FLMP 療法
—早期胃癌術後骨髄転移例における 5FU
血中濃度の日内変動—

山田 保・横森 忠紘
家里 裕・小林 功 (小千谷総合病院)
落合 亮・橋本 直樹 (外科)
梅津 哉 (新潟大学第二病理)

進行再発消化器癌に対する化学療法として、われわれは biochemical modulation を考慮した 5FU, CDDP, MMC, LV, の多剤併用療法に chronotherapy の理論を導入した FLMP 療法を行い良好な結果を得ている。

今回、早期胃癌術後6年の骨髄転移による DIC に対しこの療法を行い有効と思われたので報告する。症例は72歳女性で、66歳時に胃切除を行い、signet ring cell ca., sm, nl (+) で、UFT と OK 432 を5年間投与した。術後72ヶ月後に腰痛で入院し、骨髄生検で胃癌の骨髄転移と診断し、DIC を併発していた。1クール4週とし、5FU 500 mg/day を day 1~day 5 に24時間持続投与し、LV 21 mg/day を day 1~day 5 の午後4時に、MMC 2 mg/day を、午後4時に CDDP 80 mg/day を静脈内投与した。1クール終了時

点で、DIC は著明に改善した。副作用は、軽度の嘔気を認めるのみであった。5FU の血中日内変動は夜にやや高い傾向がみられた。

11) 高度進行および再発胃癌に対するアンギオテンシン II (AT II) 昇圧動注化学療法

宮下 薫・鈴木 茂
山本 哲久・永島 伸夫 (燕労災病院外科)
大黒 善彌

高度進行胃癌や再発例の治療に難渋することが多いが、これら症例に対し大動脈あるいは肝動脈カニューレーションとポートの皮下埋め込みを行った上でヒト型 AT II 昇圧動注化学療法を行ってきた。症例は術前に多発肝転移と大動脈周囲リンパ節が著明に腫大した症例に術前化学療法として1例、また肝転移3例と傍大動脈リンパ節再発、腹膜播種再発の各1例ずつの6例である。左胸肩峰動脈よりカテーテルを肝動脈内あるいは大動脈内に留置して、ポートを鎖骨下の皮下に埋め込み、治療は AT II を経静脈的に投与して平均血圧を約1.5倍に維持し、MMC 10~20 mg/体、ADM 10~20 mg/体を各々約10分かけて動注した。その後 5FU 250 mg/体/日を携帯型注入ポンプを用いて14日間持続動注した。AT II 昇圧動注化学療法を2~5クール施行し、評価可能病変のない腹膜播種再発の1例を除く5例中 PR と判定できた症例は3例であった。

12) 食道壁内転移を伴った噴門部癌の1手術例

広田 亨・小向慎太郎
松本 淳・桑原 史郎
武者 信行・大日向一夫
鈴木 聡・西巻 正
藍沢喜久雄・鈴木 力
畠山 勝義 (新潟大学第一外科)

食道癌における壁内転移は遠隔転移と捉えられ根治手術は難しいと考えられている。一方、噴門部癌の食道壁内転移の意義は不明であり、報告例は本邦で7例を数えるのみである。今回我々は下部食道に壁内転移を認めた胃噴門部癌の1例を経験したので報告する。症例は65才男性、主訴は嚥下困難。内視鏡で下部食道に浸潤する噴門部癌と診断。主病変から2cm離れた口側食道に粘膜下腫瘍様病変を認めた。手術は胃全摘、脾尾部脾合併切除と中下縦隔リンパ節郭清を伴う非開胸食道切除術を施行。肉眼所見では局在 CE, 5×6 cm, 3型, 組織学

的には中分化型腺癌で se, ly2, vo, n2 (No3, 111) であった。また詳細な病理学的検討の結果、食道病変は主病変とは非連続性の中分化型腺癌であり、胃癌の壁内転移と診断した。このような癌腫に対しては、手術の根治性と侵襲を考慮して、胃全摘に加え中下縦隔リンパ節郭清を伴う非開胸食道切除術が適当であると考えた。

13) 頸部進行食道癌に対する Grillo 手術の経験

松木 淳・広田 亨
 桑原 史郎・武者 信行
 大日向一夫・鈴木 聡
 西巻 正・藍沢喜久雄
 鈴木 力・畠山 勝義 (新潟大学第一外科)

頸部食道癌の外科的治療成績は、胸部食道癌に比べ不良である。しかしながら、根治的切除、リンパ節郭清を十分に行うことにより治癒せしめる症例も多く、また根治的手術の適応と為し得なくても、癌腫による気道狭窄や閉息、咽頭食道狭窄の改善のために切除再建適応とすべきものもある。

今回、我々は頸部食道癌気管浸潤例 2 例に対し、咽頭食道切除、両側頸部及び上縦隔リンパ節郭清、縦郭気管瘻作成 (Grillo)、咽頭胃吻合術を行い良好な結果を得たのでここに報告する。

14) 原発性十二指腸癌の検討
 — 乳頭部癌との比較 —

野本 一博・土屋 嘉昭
 筒井 光廣・梨本 篤
 田中 乙雄・佐々木壽英 (県立がんセンター)
 佐野 宗明・牧野 春彦 (新潟病院外科)

【目的と対象】 原発性十二指腸癌の特徴を明らかにするために、過去 6 年間の原発性十二指腸癌手術症例 7 例 (以下 DK 群) と、乳頭部癌手術症例 14 例 (以下 PVK 群) とを臨床病理学的に比較検討した。【結果】 ① DK 群の最大径は 2.5~6.5 cm (平均 4.3 cm) で PVK 群に比べ有意に大きい腫瘍が多かった ($p=0.0035$)。② 手術は全症例に PD が施行されており、深達度は ss が 1 例、si が 6 例、リンパ節転移は si の 6 例中 5 例に認められ、PVK 群に比べ有意にリンパ節転移症例が多かった ($p=0.0181$)。下行部の症例の 2 例で 16b1 にリンパ節転移を認めた。③ 3 年生存率は DK 群 75%、PVK 群 82.5% で、両者の間に有意差はなかった。【まとめ】 DK 群は PVK 群に比較し、進行癌で発見されること

が多く、また 16 番リンパ節に転移している症例もあるため、手術は 16 番郭清を含む PD が必要であると考えられた。

15) 食道と他臓器の重複癌症例の検討

片柳 憲雄・中川 悟
 山本 陸生・斉藤 英樹
 桑山 哲治・藍沢 修
 丸田 有吉 (新潟市民病院外科)

1996 年末までの 23 年間に経験した食道癌症例 305 例のうち、他臓器に重複癌のある 57 例 (18.7%) を対象として、手術術式、治療成績を中心に検討した。同時性重複癌が 33 例、異時性重複癌は食道癌先行が 11 例、他臓器癌先行が 13 例であった。重複臓器は胃が 30 例 (52.6%) と最も多く、続いて大腸・直腸 8 例、咽頭・喉頭 7 例、肺 4 例、甲状腺 3 例、尿路系 3 例などであった。胃癌との重複例では、早期癌が胃管作製時の切除範囲に含まれる場合を除いて胃全摘、回結腸あるいは空腸による再建を原則とした。両癌に対して治癒が期待できる治療ができたのは同時性重複癌 26 例 (78.8%)、異時性重複癌の食道癌先行 10 例 (66.7%)、他臓器癌先行 7 例 (77.8%) であり、5 生率はそれぞれ 31.3%、25.0%、47.6% であった。治療成績向上のためには重複癌の存在を念頭においた診断と、両癌の治癒を目指した積極的な治療が重要であると思われた。

16) 正常分娩直後に性器出血で発見された妊娠性絨毛癌の 1 例

東條 義弥・芹川 武大
 青野 一則・花岡 仁一 (新潟市民病院)
 竹内 裕・徳永 昭輝 (産婦人科)

正常分娩後異常性器出血にて発見された妊娠性絨毛癌症例を経験したので報告する。

【症例】 26 歳、初産、妊娠経過順調、平成 7 年 6 月 27 日正常分娩。7 月 29 日より性器出血を認め、8 月 7 日子宮内容除去術を施行したが、その後も性器出血が持続し、8 月 17 日再度子宮内容除去術施行した。絨毛性細胞を認め、9 月 7 日尿中 HCG 1,600 IU/I と高値、経膈超音波断層法で、子宮内に 14×7.7 mm の腫瘍性病変を認め、MRI では、子宮筋層内に高信号域を認めた。胸部 X 線写真では転移巣は認められず、絨毛癌診断スコア 5 点、臨床的絨毛癌と診断。9 月 15 日より Etoposide 150 mg×5 日間、10 月 5 日より MEA 療法を 2 コース施行。